

プランクトンを採集しよう！(1)超お手軽編		
学年	教科	学習内容
小学校5年	理科	B 生命・地球 (2) 動物の誕生 魚を育てたり人の発生についての資料を活用したりして、卵の変化の様子や水中の小さな生物を調べ、動物の発生や成長についての考えをもつことができるようにする。 イ 魚は、水中の小さな生物を食べ物にして生きていること。
小学校6年	理科	B 生命・地球 (3) 生物と環境 動物や植物の生活を観察したり、資料を活用したりして調べ、生物と環境とのかかわりについての考えをもつことができるようにする。 ア 生物は、水及び空気を通して周囲の環境とかかわって生きていること。 イ 生物の間には、食う食われるという関係があること。
中学校	理科(第2分野)	(3) 動物の生活と生物の変遷 生物の体は細胞からできていることを観察を通して理解させる。また、動物などについての観察、実験を通して、動物の体のつくりと働きを理解させ、動物の生活と種類についての認識を深めるとともに、生物の変遷について理解させる。 ウ 動物の仲間 (イ) 無脊椎動物の仲間 無脊椎動物の観察などを行い、その観察記録に基づいて、それらの動物の特徴を見いだすこと。
中学校	理科(第2分野)	(7) 自然と人間 自然環境を調べ、自然界における生物相互の関係や自然界のつり合いについて理解させるとともに、自然と人間のかかわり方について認識を深め、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し判断する態度を養う。 ア 生物と環境 (ア) 自然界のつり合い 微生物の働きを調べ、植物、動物及び微生物を栄養の面から相互に関連付けてとらえるとともに、自然界では、これらの生物がつり合いを保って生活していることを見いだすこと。 (イ) 自然環境の調査と環境保全 身近な自然環境について調べ、様々な要因が自然界のつり合いに影響していることを理解するとともに、自然環境を保全することの重要性を認識すること。
中学校	技術・家庭	技術分野 C 生物育成に関する技術 (1) 生物の生育環境と育成技術について、次の事項を指導する。 ア 生物の育成に適する条件と生物の育成環境を管理する方法を知ること。 イ 生物育成に関する技術の適切な評価・活用について考えること。 (2) 生物育成に関する技術を利用した栽培又は飼育について、次の事項を指導する。 ア 目的とする生物の育成計画を立て、生物の栽培又は飼育ができること。
小・中学校	総合的な学習の時間	